

日本IT書紀

187 龍の目覚め

10 迅風篇

卷之二十五 懊惱

佃 均



© 2004 TSUKUDA Hitoshi (Licensed under CC BY NC ND 4.0)

本作品はCC-BY-NC-NDライセンスによって許諾されています。ライセンスの詳細な内容は <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja> でご確認ください。

第百八十七

龍の目覚め

一

この時代、最も注目されたのは中国という国である。

北は万里の長城、黒竜江でソ連領と接し、西は崑崙山脈とゴビ沙漠をもって境となし、南はチベット、南沙諸島曾母暗砂まで二万二千八百キロにおよぶ国境線を持ち、陸地面積は約九百六十万平方キロメートルと世界第三位を誇る。国土は広く、民もまた多い。

そもそもこれほどの大地を一つの政権が掌握すること自体、ほとんど不可能に近い。黄河の北は麦と馬、南は米と舟の文化であり、西には遊牧の民が住まい、東は一万八千キロの海浜をもって市擢で生業を立てている。

古代においては東と西、のちには南と北が統一と分裂の機軸になった。二十世紀においてすら南北に軍閥が跋扈し、それが日中戦争の混迷を深める要因となった。

蒋介石が率いる国民党政府との戦いに勝利し、台湾に追放した毛沢東が、「中華人民共和国」の建国を宣言したの

は一九四九年十月一日である。歴史的慣習に倣って彼は、北京の紫禁城天安門で宣言文を高らかに読み上げた。

天安門。

高さ三十三・七メートルというこの巨大な門は、一四二〇年に明の永楽帝が建てた「承天門」が戦火で焼失したため、一六五一年に再建された。「天安門」の名が付いたのはそのときである。

紅殻の城壁と瑠璃瓦に彩られ、その資材は冬の寒さが最も厳しいとき、道に水をまき、それが凍った上を滑らせて運んだといわれる。もとは皇帝の詔書が発布されるところであった。

天安門に立つ毛沢東を中心に、左後方に劉少奇、朱徳、周恩来など建国の英雄たち居並び、眼下には人民が歓喜の声をあげている。城門楼に掲げられていた「開国大典」の絵は董希文が描いた建国式典の様子だったが、要人が失脚するたびに修正が重ねられていた。すなわち政争と粛清の歴史を描いてもいた。

一説に五十万人を一度に収容できるといわれ、しばしば歴史を動かす舞台となった。六五年に始まった「プロレタリア文化大革命」は、国家主席に就任した劉少奇を名指しで攻撃し、これを毛が「造反有理」としたために軍を巻き込んだ権力闘争に発展した。

紅衛兵たちは『毛沢東語録』を片手に街を練り歩き、劉少奇ら反毛派を「実権派」と呼んで批判し、多くの文化人政治家、軍人が肅正され、あるいは農村に追放された。混乱は国際的孤立と経済の沈滞を招き、周恩来が國務院総理として収拾に手腕を振るった。

周は毛の五歳年少だった。江蘇省淮安県に生まれ、若いころ日本、フランス、ドイツに学び、軍事と外交に秀でた能力を発揮した。一九七二年二月、ニクソン米大統領と会谈して中国の国際社会復帰を決定し、同年九月には日本の田中角栄と日中国交回復で合意するなど、最晩年に重要な仕事をした。

偶然だが、第二次大戦後の中国を率いたこの二人の政治家は、ともに一九七六年、示し合わせたように世を去った。年下の周の方が早く、一月八日に息を引き取った。毛はそれから八か月あとに没し、その遺体は天安門広場南側に建てられた毛沢東記念堂に、いまでも安置されているという。

二

文化大革命の嵐がまだ盛んだったころの話である。

一九七一年の三月二十八日から四月七日まで、第三十一回世界卓球選手権大会が名古屋で開かれた。中国は世界チ

ャンピオンの莊則棟選手をはじめとする選手団を送り込んできた。卓球は共産主義中国が国際社会と接触するほとんど唯一のか細い糸だった。

このときアメリカ選手団のカリソン副団長はひそかに、中国選手団に随行してきた宋中秘書長と接触を持った。共同通信北京支局長だった中島宏によると、それは大会最終日の四月七日のことだった。

私は午前中、中国代表団が宿舎の藤久観光ホテルでアジア・アフリカ・中南米の卓球選手を招いて開いたガーデン・パーティーをのぞきに行った。ちょうど真ん中辺に、すっかり親しくなった宋中秘書長が招待客と談笑しているのが見えたので、参加者をかき分け近寄った。

するとタイミングよく旧知の江培植秘書が「重要電話、重要電話」と言いながらメモを宋中氏に手渡した。ちらりと見ると毛筆で「為中美兩國人民的友誼」（中美兩國人民の友好のために）と題がつけられているのだけが見えた。

何年か後に再会した宋中氏から、これこそが本国からの米国チーム招待の指示だった、と聞かされた。電話の北京発信担当は私のよく知る中国外務省関係者だった。彼と江氏は毎日、決まった時間に、しごく簡単な方式の暗号で電話連絡し合い、北京と日本の代表団との意思疎通を図って

いた。初めは一日三回だったが途中から毛沢東の指示で五回に増やしたという。

米中チームの關係では、これより先、四月四日と五日に、中国の元世界チャンピオン、莊則棟選手が、ヒッピー・スタイルで有名になった米チームのグレン・コーワン選手と友好交歓したことが大きなニュースになっていた。私は、莊選手の行動が儀礼の範圍を越えていたので、反米ムードが強い中国内で、相当に批判されると推測していた。そこで電話メモは、この件は「問題にしない」という結論だろう、と勝手に想像し見過ごしてしまった。宋中氏は一読すると外へ出て行つた。その後、米チームの宿舎へ行き、ハリソン副団長に指示の内容を伝えたのだという。

中国政府は、アメリカ選手団を中国に招くのは時期尚早という結論に達していた。ところが四月六日の夜、毛沢東主席が就寝する直前に「招聘」を指示したので、政府關係者は大慌てになった。

当時、自民党幹事長の職にあった田中角栄が、毛主席の側近にアメリカ選手団の受け入れを働きかけたといわれる。就寝の直前に政治的案で毛主席と面会できたのは周恩来のほかには考えられないので、田中が周にメッセージを送り、周が毛の了解を取ったのかもしれない。詳しいことは伝え

られていない。

アメリカ選手団の随行員は、北京政府にアメリカ政府要人のメッセージを伝えたであろう。七月にキッシンジャーが訪中するときも、田中角栄はひそかに仲介の労を取った。ニクソンの北京訪問は「頭越し外交」といわれるが、田中においては周知だったようなのである。

三

アメリカ、日本と国交を回復し、国連で中国の代表政府であると承認されても、毛と周はただちに経済政策を転換できなかった。文化大革命はすでに軍部まで巻き込んだ権力闘争に発展していて、二人の手では制御できない状態だった。

周の死が転機をもたらした。彼は中国共産党が創設された時からの闘士であり、日本軍国主義に身を張って祖国を守った英雄であり、国民政府との調整に腐心した政治家だった。あまつさえ国際的に孤立した中国の外交を一手に引き受け、最後は国際的な復帰を実現した大功労者だった。

にもかかわらず七六年当時の中国政府は、その死に対して十分な礼節を尽さなかった。少なくとも民衆の目にはそ

う見えた。

彼の遺灰は、遺言に従って中国の山河にまかれた。毛沢東を革命の英雄として偶像に祭り上げ、六億人の人民を統率する企ては、すべて周が指揮を取った。現実主義者でもあった彼は、自分自身が新しい偶像になることを拒否したといっている。だが民衆の目には、革命に殉じた清廉な英雄に見えた。

党と政府では、上海派の江青、張春橋、姚文元、王洪文が台頭していた。彼らは劉少奇を血祭りに上げる過程で権力の中枢に近づき、周恩来から文化大革命の実質的な指揮権を奪うことで党と政府を牛耳ろうとしつつあった。周の死後、彼らは周を批判することで、階段をもう一段上ろうと考えた。

この四人の意向を受けた「文匯報」は、三月二十五日号に「走資派還在走、我們就要和他闘」（走資派はいまなお歩み続け、我々はまもなく彼らと闘う）と題した論文を掲載し、その中で、

「党内那箇走資派要把被打倒的至今不肯改悔的走資派扶上台」（党内の走資派は、打倒されても悔い改めようとせず、走資派の登場を助けている）

と書いた。

走資派とは文化大革命によって打倒された劉少奇の一派

のことだが、論文がいう「党内の走資派」とは周恩来、「打倒されても悔い改めようとしない走資派」とは鄧小平を指しているものと理解された。周を「走資派」と断したことに抗議の声が上がった。

三月二十九日、南京大学の学生を中心とするデモ隊が市中を行進し、南京駅を通過する列車に文匯報批判と周恩来擁護の大スローガンをペンキなどで書いた。四人は触れてはならない琴の糸に触れてしまったことを知ったが、もはや手遅れだった。全国で火の手が上がった。

三月十九日、北京市朝陽区牛坊小学校の紅小兵が、天安門広場の人民英雄紀念碑前に花輪を捧げた。花輪には

——周伯伯永遠活在我們心中

という言葉が副えられていた。

「周おじさんは永遠にわたしたちの心の中に生きている」という意味であって、のちに「天安門悲歌」として全国に知られた。

これがきっかけとなって、四月四日の清明節（二十四節季の一つであって、春分のち十五日目からの三日間、人々は先祖の墓参りや郊外へ出かけたりする）までに、人民英雄紀念碑前に人々が誰いともなく集まって英雄を追悼し、花輪や詩詞を献じた。

人々は周恩来を祀るべき場所を見出していった。

それは人民英雄記念碑だった。

形もどこか位牌に似た雄碑は、人民革命のために碧血を流した人々を記念し祀る碑であり、その裏には周恩来によるといわれる揮毫があるためによる。人々は彼を人民英雄と見なし、そのため、ここに悼むために集まってきた。

対して当局は

——反革命的な動きあり。

として、民兵五万、公安三千を動員して天安門広場を包囲し、花輪を取り去り、群衆の排除を行った。

これを知った民衆は翌五日、当局の封鎖を破り、「花輪を返せ」「仲間を返せ」と叫びながら「聯合指揮部」を取り囲み、これを焼き討ちした。午後九時三十分、一万人の民兵と三千人の警察、五個大隊約二千五百人の北京衛戍部隊が出動し、棍棒と皮ベルトをもって民衆を制圧していった。これが彼らの命取りになった。

事件の背景には、周恩来への追悼の念だけでなく、十年も続いた文化大革命への反発があった。知識階級に空白が生じ、経済が低迷した。密室政治が横行し、地方官吏が権力を乱用し、人民が相互に監視し合う抑圧的な日常が続いていた。

だが人々は、正面切って文化大革命反対を口にするこ

はできなかつた。それが英雄の追悼という行動に結びついた。ただ当初の献花は純粹な追悼の念と愛国の思いで行われた。政治的な意味合いを持つようになるのは、むしろこれ以後である。

四

のちに明らかになったところによると、周恩来は自分の死期が近いことを知って、腹心に江青、張春橋、姚文元の名を示し、

——自分が死んだら、この者たちが私を悪ざまに罵るのであろう。

と言い置いた。

毛は古い、もはやその存在は象徴でしかなくなっていた。そもそも文化大革命は、毛の陰謀にほかならなかつた。経済政策の失敗を理由に、自分を国家主席を座から引きずりおろした劉少奇一派を転覆し肅清するのが目的だった。それを承知していた周が毛を支持したのは、あくまでも毛が国家の屋台骨であると信じたからではなかつたか。

七六年の九月九日、毛沢東は死んだ。死亡したとされる日は、古来から吉兆が顕われるおめでたい「重陽の節句」に当たっている。その死亡日もまた、政治的な意味合いが込

められていた。

それから二十七日後の十月六日、江青、張春橋、姚文元、王洪文（「四人幫」、あるいは「王張江姚」と呼ばれる）は北京市紫禁城に隣接する南海の懷仁堂で、「反革命クーデターの予防的措置」の名目で電撃的に逮捕された。逮捕を指導したのは葉劍英、聶榮臻ら軍幹部、直接逮捕に赴いたのは汪東興率いる八三四一部隊だったと記録される。

四人組逮捕の翌日、華国鋒が党主席に就任した。「反革命的クーデター」とは、どちらにとつての言葉であったのか、歴史はまだ結論を下していない。

ともあれこの四人の失脚をもって文化大革命は幕を閉じた。天安門事件を「反革命的民衆の反乱」とした政府の決定は、七八年十二月に開かれた中国共産党十一期三中全会で、全面的に撤回された。

併せて決定された「四つの近代化」策は、農業、工業、国防、科学技術の四つを現代化することに主眼が置かれた。これに基づいて中国政府は「三金政策」（鉱業、工業、金融）など、中国経済を發展させる国家的大目標を打ち出していく。それは七五年の第四期全国人民代表大会で周恩来が提起した内容だった。

四人幫のうち最も政治経験が豊かでリーダー的存在だった張春橋は、八一年に死刑・執行猶予二年の判決を受け、

のち終身刑に減刑された。その後死亡したともいわれる。姚文元は懲役二十年の判決を受け服役、王洪文は無期懲役で収監され九二年に病没した。

毛沢東の妻で「女帝」ともいわれた江青は、一九一四年山東省諸城で生れ、本名は「李進」という。山東実験劇院に入り、のち上海で「藍蘋」（ランピン）の名で舞台に立った。

三八年毛沢東が彼女を四番目の妻にすると決めたとき、党の幹部たちは

——決して政治にかかわらせてはならない。

と諫言した。しかしその諫言は守られなかった。八一年の林彪・四人組特別法廷で文革の正当性、自らの正しさを昂然と主張し、「反革命集団を組織、指導した主犯」として死刑・執行猶予二年の判決を受けた。八三年無期懲役に減刑されたが、九一年服役中に自殺した。

天安門広場に献じられた多くの詩は、多くの人々が書き写し、七七年ごろから「天安門革命詩抄」の名で編集が進み、七八年に香港で初めて印刷物として刊行された。のち類似の詩集が南京や上海などでも刊行され、「天安門悲歌」「天安門詩抄」「天安門詩文集」「革命詩抄」の五種が存在が確認されている。

収録されている詩詞は自由詩三十七篇、四言詩九篇、五言詩四十八篇、六言詩五篇、七言詩百六十六篇、詞百篇、その他三十七編、付録六篇とされる。

編者は、「童懐周」とあり、北京第二外国語学院漢語教研室主任だった汪文風を中心とする十六名のグループの名乗りと考えられている。「童」と「同」は同じ発音であることから「同懐周」が本来であろうとされる。「ともに周を懐かしむ」の意味にはほかならない。

「読三月二十五日《文匯報》有感」と題された詩がある。

三月二十五、妖霧起黃浦

三月二十五日、黃浦に妖霧が立ち上り

文匯充當馬前卒

文匯報が手先を務めた

攻撃総理眞露骨

総理を攻撃することまことに露骨だ

当用開水煮

熱湯で煮詰めてしまえ

偽君子 窃国賊

君子と偽って国を盗み取る賊は

謀議篡政心太黒

政權篡奪を謀議する心は真つ黒

幾番夢中称王侯

何回王侯になる夢を見たことか

無奈是鼠輩

いかんともしがたい鼠賊

好儿女 皆揩淚

立派な息子娘達よ、皆涙を拭い

総理靈前列成隊

総理の靈前で隊列を組もう

驅妖邪、莫慈悲

妖邪を駆逐するには慈悲はいらない

要以刀槍对

武器でもって対抗するのみ

「向総理請示」と題した詩篇もある。

この中の「江橋」は江青と張春橋を示唆している。

黃浦江上有座橋

黃浦江には橋があり

江橋腐朽已動搖

江の橋は腐り果てすでに揺らいでいる

江橋揺 眼看要垮掉

江の橋はぐらついで

今にも崩れ落ちようとしている
請指示是折還是焼

どうか御指示を 叩きつぶすか、焼き捨てるか

~~~~~ 補 注 ~~~~~

南沙諸島 曾母暗砂 南沙諸島は南シナ海の中央に浮かぶ約百の環礁で成る。曾母暗砂はその南端(北緯四度)にある無人島で、中国が領有権を主張している。かつてはどこにも帰属しない商船の中継地だったが、一九三九年大日本帝国陸軍が上陸して領有を宣言し「新南群島」と命名した。五年の対日講話条約で再び無主権となったあと、中国が南沙群島を含む南海諸島全域の領有権を主張して周辺諸国との間で領有権をめぐる紛争が生じた。現在は中国、台湾、ベトナム、マレーシア、フィリピンの五か国が領有権を主張し、分割占領状態にある。

市擢 してき…海上交易のこと。中国では陸続きの商取引を「交易」といい、權をもつて行う海上交易を「市擢(してき)」と表現した。『魏志倭人伝』にも倭人が玄界灘を往来して韓地と交易していた様子を伝える「南北市擢」の文字が見える。

蔣介石 Jiang Jie-shi または Chiang Kai-shek / チャン・チエシー / 1887~1975。中国の浙江省に生まれ一九〇七年(明治四十)日本の陸軍士官学校に留学し振武学校(留學生のための陸軍士官学校予備学校)を出て浙江財閥の政治的代表者・陳其美や孫文と接し中国革命同盟会に入った。辛亥革命に参加し二二年(大正十)広東軍政府に参画、一三年大本営参謀長となった。二四年黄埔軍官学校長、二七年宋美齡と結婚して孫文の後継者となった。二八年(昭和三)南京政府主席となり三七年国共合作を成功させ米英両国の援助を得て対日抗戦を展開した。日本の無条件降伏に際してラジオ放送で「報暴以德」(暴に報いるに徳を以ってす)

と呼びかけ、日本軍人・軍属の本国帰還を平和裏に導いた。のち共産党・毛沢東との抗争に敗れ四九年台湾に移った。

毛沢東 Mao Zedong / 1896~1976。字は「潤之」。湖南省湘潭県に生まれ一九二一年(大正十)上海で陳独秀・李大釗等とともに中国共産党を創立、湖南代表として第一次全国大会に出席した。二四年第一次国共合作ののち共産党中央委員、二七年武漢政府樹立に伴い中央農民部長となった。五か月後に農民軍三千を引き連れて西省井崗山に入り、朱德軍と合流して「井崗山ソビエト区」を樹立したのち三一年江西省瑞金を首都とする「中華ソビエト臨時政府」主席となった。日中戦争・国共内戦を経て、四九年北京を首都に中華人民共和国の成立を宣言し国家主席。五八年国家主席を劉少奇に譲ったものの六六年にスタートさせた文化大革命で実権派を失脚させた。六九年毛・林彪体制を確立し、周恩来を首相に任じ中国の基礎を作った。

董希文 Dong Xiwen / 1914~1973。浙江省紹興に生まれ、幼少期に杭州に移った。父は地方の文物鑑定家だった。三二年杭州之江大学土木工学部に進み三三年蘇州美術専科學校、上海美術専科學校、ベトナム美術専科學校、国立杭州芸術専科學校本科を経て画家となった。三七年日本軍によって杭州が陥落したとき二人の妹を失ったのをきっかけに抗日宣伝活動に参加した。二二年敦煌で壁画を学んだとされる。『ガザフ族の羊飼いの女』『北平解放』『開国大典』などの作品に大きな影響を与えている。四六年「董希文敦煌壁画模写創作展覽」が大きな反響を呼び国立北平芸術専科學校の副教授となった。

莊則棟 Zhuang Zedong / 1941~2013。北京に生まれ、幼いときから卓球を習い五七年全国大会の混合ダブルスで優勝し

た。六一年の第二十六回から六五年の第二十八回まで世界卓球選手権大会で三回連続男子シングルスチャンピオンとなった。団体優勝にも貢献し、三度にわたって体育運動榮譽賞を授与され、七四年文化大革命で国家体育運動委员会主任になった。四人組逮捕後、山西省で四年間投獄され、釈放ののち山西省などで卓球コーチを務めるかわら映画にも出演した。

中島 宏 なかじま・ひろし／1934～…七〇年当時、共同通信社の北京支局長だった。アジア通信社連盟(OANA)のち「アジア・太平洋通信社機構」と改称)が一九七〇年八月、東京で総会を開催したとき、中国政府は「台湾の中央通訊社を招く総会開催は二つの中国を作る陰謀に加わることだ」と警告していた。共同通信社はOANAの会長会社として台湾の中央通訊社の受け入れを認め総会を開催したため、北京支局長の中島が国外退去処分を受けた。

#### 重陽の節句

古来、中国では奇数を陽、偶数を陰とする思想があった。奇数月と同じ奇数の日を「重陽」と呼び、季節に応じた祭事を行った。すなわち一月一日、三月三日、五月五日、七月七日、九月九日である。(このうち最も大きな奇数が重なる九月九日がとくに「重陽」とよばれる。)

江青 Jiang Qing／1914～1991。出生時の名は「李淑蒙」、間も無く「李進」「李進孩」と改名した。

華国鋒 Hua Guofeng／Hua Guofeng／1921～2008。本名は「蘇铸」。山西省交城县に生まれ一九五九年湖南省党委書記となった。七一年林彪事件以後北京で活動し始め、文化大革命後期の七三年政治局委員、七五年國務院副總理兼公安部長、七六年国

務院總理兼党第一副主席を経て、八〇年首相に就任した。「華国鋒」の名は抗日戦争時に属していた「中華救国先鋒隊」にちなんでい

る。

四つの近代化 *sì ge xiandaihua*：周恩来が一九七三年の中共第十回全国大会で提唱、七五年の第四期全人代第一回会議で基本路線を確定した。アメリカ、日本との国交回復はそれに基づいて行われた。華国鋒は外貨準備が不十分だったために行き詰まったが、鄧小平は最も基本となる農業の工業化のため山峡ダムに代表される水利の整備と電力の増産、化学肥料と耕作機械の普及に努め、併せて深圳、珠海、汕頭、廈門を経済特区に指定して資本主義原理を導入した。またプラスチック成型、電気製品の組立生産などを全世界から受注して軽工業の振興を図った。

# 日本IT書紀 187 龍の目覚め

著 者：佃 均

発行者：（特非）オープンソースソフトウェア協会  
<http://www.ossaj.org/>  
[info@ossaj.org](mailto:info@ossaj.org)

発行日：2023年4月10日

本作品は2004年-2005年ナレイ出版局より刊行された「日本 IT書紀」全5分冊を底本とし、原著者が一部改定を加えたものを複数の電子書籍に再構成して CC-BY-NC-ND ライセンスにより公開します。



© 2004 TSUKUDA Hitoshi (Licensed under CC BY NC ND 4.0)

本作品はCC-BY-NC-NDライセンスによって許諾されています。ライセンスの詳細な内容は <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja> でご確認ください。